

令和元年度第2回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 令和元年8月30日(金) 午後3時00分～午後5時30分

2 場所 秋田市役所 3階 3-D会議室

3 出席者

(1) 委員(10人)

奥山順子会長、相場哲也委員、伊藤由香里委員、小林崇之、
佐々木亮次委員、鶴田悦子委員、中川聖子委員、廣嶋禮治委員、
古田由美子委員、宮川勉委員、森合清子、山崎純委員、渡辺丈夫委員

(2) 事務局

子ども総務課長(佐々木良幸)、子ども育成課長(夏井保)、
施設指導室長(脇坂正憲)、子ども健康課長(加賀谷洋子)、
子ども未来センター所長(新田目剛)、ほか関係職員

4 傍聴者 1人

5 会議の内容

○開会

○議事

- (1) 「第二次秋田市子ども・子育て未来プラン」の最終評価について
- (2) 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて
ついて

○閉会

6 議事要旨

○奥山順子会長

それでは、議事の(1)「第二次秋田市子ども・子育て未来プランの最終評価について」事務局より説明をお願いします。

【事務局説明】

○奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

○山崎純委員

施策の内容・質に関する指標の設定について具体的な方針等はあるか。

○事務局

具体的には、これから検討していく。

○奥山順子会長

放課後児童クラブについては、ぜひ実情を知っていただき、施策に反映していただきたいと思う。

○渡辺丈夫委員

10月から幼保無償化が始まることにより、幼稚園の預かり保育が増えると思う。市として、預かり保育の時間の適正化について考えていただきたい。

○事務局

今のところ、行政として市民に対し、何かという予定は無いが、幼保無償化が始まってからの状況を見極めて判断したいと思う。

○山崎純委員

基本施策2-2の食育について、現場にいると食に関する質問をされることがある。市では離乳食教室などを実施されているが、日中の開催のみだと働いている世帯は参加できない。具体的な開催日程はどのようになっているのか。

○事務局

離乳食教室、幼児食教室はいずれも平日の午前中の開催となっており、委員のおっしゃるとおり日程については、検討して行かなければならないと思う。なお、乳幼児検診などでも、食育などの相談は受け付けているため、一定の相談機会の提供は行っている。

○渡辺丈夫委員

基本施策4-1のワーク・ライフ・バランスの推進については、評価Aとなっているが、育児休業取得者は保育所入所を確約するなど、具体的な取り組みが必要なのではないか。

○事務局

委員がおっしゃるような取組は素晴らしい発想だが、実施はなかなか難しい。それよりも、企業が積極的にワーク・ライフ・バランスが推進できるようにはたらきかけていく。

○宮川勉会長

基本施策3-2について、学校や行政でも各種相談業務は行っているが、本当に必要な人には情報が届いていないと思うため、情報発信について工夫をしていただきたい。また、児童の見守りについて、地域で差はあると思うが、民生児童委員と情報交換をするなど、様々な角度で子どもたちと関わっていただきたい。

基本施策3-3について、情報モラルの指導について、次期プランにも重点的に組み込んでもらいたい。

○事務局

市内9箇所少年指導委員会があり、巡回を行っているが、委員のおっしゃるとおり各地区によって差はあるため、各地区に登校時、下校時の見守りについて促していきたいと思う。また、民生児童委員とは、地区によって関わりが異なるため、そういったところについても今後検討していく。

情報モラルについては、市では10月に少年指導員を対象に情報モラルの研修会を行う予定である。情報モラルについては、市でも重要だと感じており、次期プランにどのように反映させるかは、今後検討していきたい。

○佐々木亮次委員

基本施策3-1について、秋田県は臨床心理士が少なく、各相談窓口の配置体制が厳しいものと感じている。臨床心理士が務めるスクールカウンセラーだけでなく、相談内容によってはソーシャルワーカーも活用するなどしていただきたい。

○事務局

担当課へ引き継ぎを行う。

○相場哲也委員

基本施策6-2について、施策における課題認識で他機関の貸し付け内容が充実しているとあるが、市としては今後どのようなスタンスで事業を実施していくのか。

○事務局

必ず市の貸付を利用してほしいということではないが、継続して事業の周知は行っていく。

○相場哲也委員

他機関が充実しているのであれば、他機関の利用されるというのは当たり前だと思う。そのような点も含め、次期プランでは目標設定を考え直すべきではないか。

○事務局

次期プラン策定の際に検討していく。

○奥山順子会長

基本施策6-1について、児童虐待はテレビや報道で多く取り上げられているが、報道レベルで頭では分かっているが、実際にその場ではその情報などを結びつけられないという人が多い。親になる前の人に対する啓蒙など、幅広く考えていただきたいと思う。

○事務局

市では、市民や関係機関向けの研修やキャンペーンを実施しており、その際は、親世代や一番若くても高校生が感心を示している。今年度新たな取組として、中学校を対象とした啓蒙を実施しようと考えている。

○相場哲也委員

評価の基準について、達成率は100%なら「A」評価でよいのではないかと。達成率が低いのに「B」と評価されているものもある。

また、目標の設定はどこで行っているのか。

○事務局

評価基準については、委員の意見を参考とさせていただく。
目標設定は各担当課所室で上げているものである。

○相場哲也委員

各担当で目標設定をすると、目標が低くなる。その分「A」評価など高い評価ばかりで、プランとしてどうなのかと思う。目標はできるだけ厳しくした方がよいのではないか。

○事務局

次期プラン策定の参考とさせていただく。

○奥山順子会長

それでは、議事の(2)教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについての【資料2-1】について事務局より説明をお願いします。

【事務局説明】

○奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

○渡辺丈夫委員

①3号認定について、中央地区の平成30年度実績から、令和2年度になると大幅に減っているのはなぜか。

○事務局

実績は施設所在地で把握をしているが、量の見込みは利用者の所在地で算出されているため、違って見えるものである。

○渡辺丈夫委員

今後、この量の見込みをもとに保育施策を実施していくとなると、リンクしないのではないか。

○事務局

今回の資料だけでなく、今までの様々な数値を用いていく。

○奥山順子会長

それでは、議事の(2)教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについての【資料2-2】について事務局より説明をお願いします。

【事務局説明】

○奥山順子会長

ただいまの説明に対して、質問や意見はあるか。

○渡辺丈夫委員

7の一時預かり事業について、従来の私学助成の分ということか。

○事務局

その通りである。

○渡辺丈夫委員

9のファミリーサポートセンターについて、保護者から使い勝手が悪いという意見を聞くが、今後の事業の展望はどのように考えているか。

○事務局

利用するまでに、時間がかかるという意味かとは思いますが、子どもを預けるための研修なども受ける必要があるため、そういったことも含めて周知していきたいと思う。

○山崎純委員

今後、休日保育のニーズが多くなっていくと考えるが、市として休日保育の量の見込みについてどう考えているか。

○事務局

休日保育の必要性は感じている。しかし、保育士の確保が困難であるなどの理由もあり、全ての地区に施設がある訳ではない。ニーズ調査の結果なども参考に、利用施設が増えるよう鋭意検討、働きかけてまいりたい。

○奥山順子会長

ほかにはないか。ないようなので、これをもって議事を終了する。